麦慰舎梅通句集

乾

へ 5
5638
1

門へ
號 5638
卷 1

序

傳樂

楚辭者。古詩之苗裔。屈宋之所作。一時之文耳。至近世則不然。俳諧者一家之文

宝玩

也。松梅軒狸主壇坫。而苗裔

后者。井筒氏。貴業。吐駝名四方。三子五

逝。而其法多之門。獨表附之梅通以之
技鳴。從之子而之壇坫。其為人通脫。
日朕杯酌。自一話一言。以及峯巒。能使人忘
淵。謂素能仙道。而少命跌宕。拔通
生於仙道。蓋得之天也。冒其為其法。
推稱宗師。而招請弟子月。來遊冥
左。西遍九州。南浮海。山珍海錯。
無所不嘗。鄙之瑣事。全所不知。
問其之廣。以是以須技而造妙境焉。須
日法弟子謀。列表附金集。信厚

于余。余人也。不甘蓬戶之廟。拾歌一
云。因為余人紀像云。
兼て是を言葉
嵯峨月潭[illegible]梅丹[illegible]

麦慰舎梅通句集

昭十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

まちの郊
初秋郊外下ゆくれば青の那
市新宮[illegible]梅[illegible]
三ヶ月して国[illegible]る野の那
吟あ[illegible]を内[illegible]

ちやうかのちきこえうふのうち
格別の雪てみて一の句のち
彩内書を拾て
元日やさかしらすまふ蕎麦の
元日も為ひ出の鶴の郭
拙芝濃きの小ふまゆ川の新
郭外
ゆ水もくまてや新のちの移龍

於たてこんをやちとれたの恵方
柳ちをしほハしてあむ恵方
雑蕎をんて歯ぬ恵方
ひくゆ元河ゆ子海のう雑蕎
蕎子の器
蕎茶の極くふ形ちむ点れ艶
蕎茶やたををりのひをの
ほうらいをみれおうをやるひを

檜やひのきの板に墨にて
門松をかき紙ちらしをはり
掃きけしをうらにやのこり行
書きの中ふまぎれもなくのり敷られ
利勢にて書を記す
舟荷の品をかきて
遠信はおもてからとて思ひの
ほかなのみけつのみみけりを遠藤

思朝や一日ふりて梅雨ふり
海ちらやふるる船の船頭
狂歌の中子おもひて海苔仲
ふもとのみ子海苔
歌く狂歌いひちらす海苔子
ものあうんと狂歌し海苔仲
名還暦
猫九法ちくらふる日あり初暦

ゆくすえはるかにかすみや初霞
みどりの月とうぐいす鶯や初春
おきなのりやさうめくさを摘む人
はるかやかすみの中なる
おきなのりとはりぬ張り絵
はるかのうちに

はるかのうちの初霞の加茂
はるかのうちの初霞の加茂
はるかのうちの初霞の加茂

正月や清水のそうりの雪の新
正月や内侍ぶやほうけうち
正月のまひとりあるれ田の形
正月やひとりぶやほうけ
正月の法云鶯やそうけ
鶯や百姓百姓百姓
鶯やひとりあるれ
はるかの松の小海うな
はるかの五々五々五々の上

五一歳ゝ[illegible]れる越の梅女子
かゝるをうけて
百ゝまゝ[illegible]ゝとゝ鶯うゝ
庭掃乃ゝ[illegible]ゝて[illegible]ゝ鶯ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
和宮や氷のうゝの丸太橋
ゝをして[illegible]ゝの小松原
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ小雪原

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
あらたまるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝに[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
松ゝ紫の紐ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
半夏のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

みうれ系まてる
物よりて芳野山の花菜切る
おもきうれ面もかきう菊れ
七竹やあうさ角なる毋ぬ海
あ千とせもうちけ数を
はもれい千年そを殺ぶう
よきひを祝して
ひうきふり系ぬるかうへ城菜摘

古稀れ祝句をうたて
さやせく芳野をかをしう仕数
さう河うう春千ろろ花風名
系沢の仮千若ぬうんとう郎
函まて系ぬやす嬉行れ
松の髪保ぬうの芳野の梅
ぬう孫やまうさ三り四れ梅乃れ
梅まはしあるや尾ぬれうう新

つら形さしこめて細の梅は花
はさしかりてはなれぬ
人をもはなれて
白妙もあやしくたの梅
はるかに向ふ人しる梅は
さきこそ梅は紅ふかき
梅ゝ香やたちなほしてたれ和
枝を葉ゝりそれて梅花

梅はれそこれ梅はれ梅
梅は新しき入るゝの月はれ
色やはるけれ梅の京
二三梅咲くさ白し梅の
はるくるまにたるつゝや苔の梅
伊勢若れ梅さもとまり
伊勢山の梅を添へる金
八ゝ年の梅をうゝ

梅ゝ香やしらんかえる沓手一ゝ
月の庵すゝ
はるゝ西への山嶽乃位牌桜色
さくらあらうちを見月哉や梅林
雲野さひとゝろんすや梅の月
垣ゝし社をなし始や月と梅
枝の的て梅ゝ手縁なし山の月
霧霧や月をええ出る谷乃梅

門内ゝ雪のうゝ文ゝ月と梅
ゝ川の海ゝや一梅梅法ゝゝ
子ゝ手世を後ゝりとゝ
と空しゝゝ
海ゝゝ雲ゝ手まかせて月と梅
祝云
釣夕ゝゝしく那ゝよ梅梅
仏殿の梅画賛

ぬけうせ給ひ　御ぶさたをおもき御とがに
　小みぶたゆうとゝ
　招提寺　をぼうの大金堂の
　大宰府遠所
　みちの国　たゝ　梅の月
　物うゆけいこゝ　ゆきの百ぢ柳の
　おくもり　板屋　ねる板うち
　ほいはゝ　ゆんまつひ　を柳

御まゝ　家　なめさ　百や　人　色
保められて　ゆて　ゆ　門の柳
角猫　くあ　ゆ　柳
法華堂　の内　柳　みの柳
小京女　ゆ　切　ゆ

宋玉

灯のもとにて　ゆ　百ぢ　ゆ
吹ふけあ　て　ゆ　柳

投出し一寸も見物やタ柳
枝ぶりのさらふ一さらに柳哉
山の井や底の柳をふまて赤法華
夏屋や雨降り蔵つる紀
勢ゆけや桂さけとも鶴鳴り
古寺ひとり蔵さむ桂哉
水手新たりて桂のはらうな
蔵ふ石手蔵て百姓くつもるを弘

苗や三日月嘆きの田の形
蔵水流や川こす沢の芽
茶茸やふるさとみたる川名の雨
干さ傘却甲とは書て蔵の屋
鞠ふるこんこの西郷一余言弘
雪ちこんこあるふり言ふ哉
うちひさや法の井泥遠なるむ鉢
蔵も向うに時てとなり川

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

波之の父のお婦をかなす
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

掬るとなくつるも誘ひて時雨哉

鴨川を樓

伏見山まゝ川こゝらや時雨哉

笠取の宮よりかへりて

笠へ降る雨やいつより時ひとし雪

法雪や寺へ漬物し岩のあれ

あるゝ人の年忘れ

法雪ぬうちまつそる月かな

連や法華茅屋を明るたゝ寺

樹下の屋る窮や一日寒むし里

をを紅く寒むし場もあり紅葉

ひとりゝ一本の紅葉かをみる

あと先の寒むしまも仰ぬ不動形

鮫中ゝてこんよやゝ雪ぬ寒

寒むし月年解て去ゝ仏ゝ

彩色堤をよる

雲晴れ月のふと雲ふかき雲

形ら殺とも雲もなや羽衣二

双林寺や雲晴れ月月数

つくなりて海ゑく雲や雲晴月

雲ゑと雪ゑ雪して雲の月

梨子棚のかたり出て雲の月

ゑ松れ白雲ゑの雲や雲晴月

ゑよけの雲ゑゑりて春晴月

ふりかへりくゑ雲雲の月

行つゑに雪ある信や雲の月

雲ゑ海千たゑく雲や雲晴月

二条橋下

海のゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑ雲や雲千羽ら海の羽さゑり

ゑゑの雲や雲千羽ら海の羽さゑり

[illegible]園や梅時梅白し
[illegible]海手[illegible]角つくれぬ梅の蕾
[illegible]て[illegible]手[illegible]梅のつま
蕾[illegible]てこそ[illegible]小梅[illegible]
初雪や[illegible]ふ[illegible]手[illegible]の梅と
石[illegible]手[illegible]や雪のひと[illegible]り
掃[illegible]雪の[illegible]とけ[illegible]梅の邪
雪とけや[illegible]もくらめ数小[illegible]

雪とけや[illegible]海[illegible]れハ牛車
[illegible]手[illegible]村のうち
[illegible]の中の雪や雪[illegible]
[illegible]ほ[illegible]きそう[illegible]の雪
[illegible]雨や[illegible]手[illegible]の[illegible]やそれ
葉舟[illegible]ふ[illegible]や[illegible]
蝶[illegible]
[illegible]あや[illegible]大[illegible]川

特保れふるかえてしりぞの風
鶏こえて言ふ歩きてしるべやいにしの鐘
多を越てまそつつさわやいにしれ籠
生垣や抑きましうはの糸
はや陸子のの宮も明るゆう那
書文入りつつけすまる湖り乳
数つや高きさけうる紫雲雲
蛍や湿もあ屋も陽れすま

蛍のあるやあ弁まて弥ってあ伝
蛍のしるしりあるやあれ面
ちら色やそいて高寸紅のを
海苔の雲やあ根鶏庵も形いうり
のりれ色やゆしてこせるか銀長
ぶ川のかるうふ宮やあ屋芭蕉

祇義法志忘

ちら雲れを紀を毎む二月の那

[illegible]
[illegible]
そりおもせすめ用れ候のみ
年あて梅のお隆り浅緑の乳
東福寺法堂
[illegible]
神幣や[illegible]一畑の蒜の[illegible]
[illegible]やりの濃る行の年

社中[illegible]
[illegible]
幣[illegible]神[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
小金山[illegible]
[illegible]

かいらぎの隠もんゑねく茶きし
見ん我らしき寒苑さらく鳩ゐ隠
行隠や何事にも雑もあき風情
出く隠や古い蝶も味園も春の花あと
春のしてまさ昭に身付鳩ゐ隠
鳩ゐ隠藤も穂の飛ぶ天気まぐれ
東升か越後に鳩ゐをとゝめて
何ぞ花玉うか隠乃来涼時分

戸さゝれて我留をまちつきあられ
つもくられ切て出る雪影のいく
雉子の様く古お沖ゐや山の池
役もんや身にとゝまらり幕ゐれ雉子
かけぬ事て鞍あくましや春の宿
すりきれて庭もんまでほし雉子なれ
隠ゐ日を恐れくさめや雉子の声
きし晴や無我に顔をよみする附

雑

新年まさ浅きもこんを尽さん恐
嶋鐵の前日耳にとゝろう神恐
畑を耕尽すゆゑ渇うれ
根分して苗や植れられ時
分家せし人をかなして
久しくのれさるも根分れ家の名
年賀

根ぶしの芽やうらむ春草
芹はなやれ尽まてゝ多り新
芹乃絶せしやゝ路の根ぶ井
歌柿会
庵へ来てまゝ川る柿の木はなを
夕まれや宵家の庭はまの芝
末ふう形うやしみうれ小雪ちう
紅梅や春のうちに咲かり

紅梅や門てらの松を隠れ家
蓮翁やしまて何ふもなく
蓮翁やし沈へ門るもいとあるる
日ぬるてなりぬ淋て月をあけ
うそあはりく人のちるさ紀沒て
月あけて猫のあるて紙鳶
老て雪て雪のちるも云へ花の候
雪も二、なるあるはなり仲のもち

門口て雪をかきらふ紙を那
ちらくあやあれ陰るのいちかき
紀の紅をもむやゝ雪るれつもれ
もや一樹形一みゝ梅を雪むふ
ちりちやもの雪に陰ひ月
雪紀梅をこるてちりこむ梅紀
あんまりと四て何るを雪月秋
ちさら灯のよくなく花の横の雪

遠里や梨子のもも悩しむ哉
籠つきハ花のさえる牡丹も衆ち
蓬千露て明れハ霧の乏ら眠り
むかん挿とん牡寸紀蓬河千寒
月の暈とほしく花の深り乃
むちや宮しろにそつと一法利
霞る秋や盛り花茶の夫れる音
かんむ安来しそす鮮くやむのひとふ

何為挿尊千年ほして忘れし
みしくとゆかや秋深き宮む
山高れ夜あけ茶乃木れ足の紀
紅葉はてす添ゆるむや楳川
四方ひられ花千尉む入須の那
暁餓千挿ふす十二日
その小菜てさまおとろくやむ鵙
郭の茶んむとこ新金千

海しの石ひのかゝるまてに
なのあらはるまてに紅葉しし名をは
高山は
川中や花は紅葉のこゝろ
はのうち書ものやあらし山
京みやこは山うさや高山
はるもたゝもむ花のはるれ
立のけもはて又春の陳言ぶ

ゝるものうらうかうさやは峰のむ
ゝるはや花ゝ紅ゝ紅よりあらゝゝ
峰ゝ山ゝるはやをりく猿の上
清涼の所ゝ
人ゝゝ涼ゝゝやはゝゝゝ
京ゝゝゝゝゝゝゝ
花ゝゝ花屋風ゝゝゝゝあらし山
伊勢ゝ故ゝ塚をゝまんと

くすりし初のうみて籠又
をり深むとあり し無名
房を建かへらるとゆめく
おもひしに一本さのふせ古 柏
仏をひらて新竹房を
植さ
礼をふて高野山の能
智恵ひつ

おきまさしこ西宗しして系れ名り
西山を弘さてて大示ゆるふ
ひとふ和をよりまれて家の寺
上寺
ひとふらふて久し紀新やむの新
栗更新面改変の年長子
みな花のあり一枝さの仏連
接人やさうの桜をゆ上

一ふく其燈をもちて彩さうの
前のおもてあり　て客を彩桜
池のほうけてひとへのはさ
つの海えてもに散ちらせみる桜ふ
をそれいはのえりある桜の乱
ちらせもりなる人のをそ桜
月望うさ風のまふはちらう乱
清水あふ清やさくらも和く

さくまをえをてまくなり雪桜
をてり桜ふるやるやとり
かれ家とあるをさんそ桜桜
家宮も大川とちや桜のを
紅ふ市し宴のあ影やまみを
桜山のをそあ　の紅て清り紅
桜あをもし至宗世数れ及ひは
をく咲もかこ早たをむ桜の京

ちまの多なたゝくや桃の嵐
菜のはなや是ものゝちり見え
　ふか村の柳亭まて
立よれは冬をしのきまつりける跡たつ
ねられて花のえ摘り摘のそら
半れ候ふてよりしつほ枝葉に
綱うちれむふりかけや耳の穴
手に持しいもかし浜鵆合

揺つけて出ヶ日詰くらしり永
打くしたりもたえうちさき雲のとことき
明のちりに此の白露小鉢の花
岩たちや衣のみとよの深り鉢
手にしやらとあやしさ霧や野まて
春きて門にを露や揺ひし田の色も
　ち霞たるみをる海辺の猿を狂す
引く鴨に待夜れたつみやかいつき

芳野義遥義

野川にやなぎ折しき折柴

信西の舟にこそ乗せたれ

折て来る梅こんきりにとられ

北条八郎のかたて

久しきの物にこそ蓋の形

ある人乃年かたて

みな来て後にあやれ松の家

柳の葉はそひてやそ者はそ

つれそ来れ後あや彩の春

浪川舟中

舟の中むとそ水山の雪の

夏くに郡

芭蕉翁をおくるとて卯月の郡
鶴くるとあるうの雪の夜
松をたて海さくらさけるところ
きやの奥は鎌倉なる雪の松
きの松おくてあるをひとりかな
松をたて秋をまつ二ほれ

一刎を湯殿人参や　長　うく
孫ぬ郎の情りけんやうの舟
沒日の雲紅をおそれ月をうる
竹の戸は半あれて牡丹
一雨ふて秋てきうれしきの紅つき
秋の月さまし紅葉や牡丹
日中うに落ちすの花一枝

首途

あれまつやまのやまつゝじ
おもふてゝ
自然枯木あやのりもせぬ
人をまつ
銀屏をぬきて出たるむかしの
枯木にさくやみなみの日の
代をうぬ
大木枯くさ

苏子の中ゆけや秋の猶寒き
門さしてみそなつ吟ずや苏子の句
利口て雷てこれそうしけ京
あらし北野のこなり春深寺
るゆの赤堀いろさあるて
そのそもまそこのさこれと
繁繁伝家う探くまのふへる
あらず

高塚やとそもちもふそうけ
信川毋中まそ
川信千すそつられてう細
家ゆ千ゆてこれい色ホそ秋
ゆれ弟れ千てそゆる好う探ゆ
家ほうやふ千そもふ城苔
ゆさいけ千ゆ吹ちれて柿ゆ家
柿のなる樹とふくゆ高柴うれ

さて花あるにハ葉も也ら 梅
ひとはのみの也し新樹也茶臼山
若葉ハ花も散りたる新樹ハ花
なひとつ川や梅花のちるか奥
葉月なれみなもとに若葉かな
此落する花や梅花の花の志之
命千てあるやも若葉にはけし
うしろよりのり出る梅の若葉かな

夏あひて移のころとる新樹の事
あるしハ葉をもとして
さひしきをもとりあへ
花をもとしても花をもてよ
いつまても緑ならぬと一様に
心とゝめしよりは人の言ふ
まひとしく緑をハ申さす
やとりを求侍りける。

まつ葉ふる雪はなほさらに一樹の陰なるに
あるものまつ木のしたもしげ落葉前英
さうまのて
みちなるなりぬ花ぞ一本のあと
河陽花
ちるもなくて春しるや春はなを
和はるもりかつてやはの春
うれはてぬ帰り戸の遠ち

和の春の帰へ遠き月おぼ
和れはやはの薄は往古の宮たるみ
坂本山はもはいむうより
山法師のあらくしく
そのして神輿の出るまつり
かなら人の面をうるおらび
なりとの春をしるを時の
まつりの行ありてさうい

年あらそ法おれうまそひる
つくさ宮て後せうとありし
ようとみそ玉うるゆまうと
ぬきれと良解ふいうも
ゆりて物くれそひる
ハあらう法
和れ色そ鏡の血をとうるゆう
這芋金ゑ乎行

うれ宮を分るそはしは辺ゆれ
弥家ちそ弱もおうゆみあれの日
玉屋ちうふうそれや花はを
二月弱やしふくしうそはは堂
浪色堀ゆて
まゆるそちの玉のけうれの和ふ浪花
菜海て色ひぜしうり仏生金
みしの秋や縛色の門乃和尻れ

鯉おや川へ投るも祈れ水
鯉おを何手さえてやかいつり
みしうおや鮒もてみしり鯉の忘
笑しうおれ浮なくへしなくを
鳴安見おなりぼ鮒のきたるし

西海船中

みしうおや小時ほつくあらうま
古牧牛もう一丸おうのいろり

京へ乃髪ゆるるとうや牧牛のか
為ひ手牧のつく鮒の笑うを
鮒風や為鮒へかる蝋れ祐
彩れ牧やたまをうりをふりし
業牛のもう孫自ふ牧中りう業
牧まりすぶ乃を徒てみるや浪月搭
糸つをみなまて三へあ牧まりか
ゆう位と毋てうて牧中牧糸

はるばるして世をのがれ住しかたの海
道居
移れば香やゝ人間の世をはなれまさる紀
ことなれてもくみやこつもむ
とよめるごとくの世の中の川すじ
いろなる清らなるあるもあらず
見つけて物をうらなれを孔川
みるごとくなるまて

宮ちかき小川く糸をよる物見えつゝ
さけちかしたれなのうやみはし
えの樹へえもせい時や書かへる
ふすんて時世枝のかゝりなる
とふ雲も舟のうら形や樫の浦
三界無安猶如火宅
てもさのすれ家のおもさ石
憎牛やもひ切うら枝うり雪

[illegible]の[illegible]り向もせぬ袋[illegible]
[illegible]橋や[illegible]ても[illegible]紀山のる
かゝ[illegible]りや[illegible]きちゝ[illegible]の菊
[illegible]やあれたと[illegible]なも[illegible]寸
[illegible]をとんせてとる[illegible]
[illegible]時やきゝ[illegible]の水
[illegible]あゝ[illegible]れ
[illegible]や[illegible]時

一[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひとくと笠山さぶ水寒孔
雪新年迎いつ泥の日傘ぶ
留主事は鶴ハ出てあり相能
似合し花芭蕉のかさしや花朝

さうおぶ泥二

あらしもてまる独寂しめ笠うけ
死笠小智乃塚も雪ぶ年ぶ冬
麦ぶうぶ一まちまえる塚ぶる

梯子れの胡瓜をてら庚笠ぶ
係へ手る塚ぶうぶ守遠俤り
ぬれ行年とう有かぬる朝ぶる
さし歌く新のさ月や笠夢
樹ぶ有て新の塚ぶ塚ぶる
ゆふけて紙性をてら庚笠孔
行合ぶとう神の朝ぶる金
行楷や切人形ぶ死塚ぶる

忘れをすりはれほうれ
猫棚をつくるやおけ
抜てとるやにたうり花の色
芦ようそろたるひや彩の姿
取寸彦やみて塀ほ芦の乳
そりはのう回毎のひやもたる
山桜もおれたるやはほる
竹のようや垣せぬ空の人ところ

竹のふを結ハ新の神
後ろにすこうう
も猫てるまもおを所を市ル例
芦の芦も後ろ芦有り初新写る
忘れりもてせ後ろとしたる新ふ
垣ろうをるとそれて写る寸新うれ
中ろくを忘帆の回る屋りう市
のり出る紙縒て押こもたうル

ア彩色し成りて中のたらひ舟
投捨る事能乃ちつもりて
高さ十尺ばかりとなり
弱のつもれる所にて
はんの茶碗のかりおせられし
事能乃彩色をあら
ため守其門禁ゆるさるべき家
つゝしてはこれを慎む

よりほのかに見ていとゆ
かしく思ふ
百里の行程を経てその
道中つゝがなくて
係を得ずして
れるべしわかへし
みんなうまてこゝろや茶碗拵ひ
をたくゝ事もありて

宮深きのとこそれとありて木下闇
さゝけ持手に〇よりおちぬ桜の実
沖すてころもて昼寝の人の形
うら見や若草に[illegible]ひと拂除
伴野[illegible]
谷乃やは白花は影の花茶
坊れ志く
椿は花さくなるや額の坂

葉頃も咲や寒竹の奥
あちさゐや板戸打る露の数
葉頃花に隠れ[illegible]
[illegible]
[illegible]
あちさゐは[illegible]さはや藍の色
猪[illegible]
[illegible]夕の形

宮くれはこの夏のかや前の百合
湖こまる岸れ渚りやあやめ葵
陽の高きにつきぬるまこも蒲の
三島へつるやひと筋皐月川
根殼雲るる水きつれ秋三島
不月面や時れまてみる一里塚
さみれやあこかぬる海れ巻
るてんら里れ仰てやあ月面

黄波をこりはるえんりあ月面
さみれの深もかくこ一里塚
月面やいい川時まも夕こ
湖れ面
さみれやさいれ元の孫まり
清もこ手拭ての
月面やこてもうとる天満橋
加茂の堀川の源をまて

さみだれの雲吹きてはれ芦の間
孫をうゑやる軒の夏月の面影萩
星霧よりあらはれまかりそ孫
乃ちさのら孫つ面の宝
紀年国の面孫徴とす
はるし際のたえうる系色
ふひやられ待りて
八物年寿あるもあれよ明海深

七里の後海面波の白を
もりあふ八物あれり数や海の上

雨潤

ひとうれたるや懺年うるれ夢
すり切や蓬れたれみのうう
蔭切や松へもまれと出れ波
修れ宝やすけうれる金典湖
言水や保宝を修れ世なき

何舟そ沖に漕ぎ出す夫か
沿ひ来るうけれ笠やの雑
こそ屋敷紀伊をたのこれ通り鴨
まこもをとこそ舟の匂ひれ
面をけ岸れさんえり移舟を
一五郎移河を飾ふ新高を
出れ沿て山のふさる移川か
移の嶺よそそる舟の出る

空の灯ちかしらあくや移のつれ
移川の川さへれ紅ひを
夕さそ也紅もひをれ影を頃る
小世宮を掌梅舟
遠る形く宮ちなる梅れ梅れ
月もまさらあれやそ年行
若年やそ月のさもつらすなる
何ぞ酒て一杯深そ苦悩

麦を門の屋ゝや初れば
蕪菁の徐浦へ出て
海ゝをしらぬ寸ゝや初の色
播磨ゝ国原陳れそゝや紅の花
祖翁西国ゝ向
都のけや猪名の猿麦を拾尾也
ゝ鮮明や麦の間ゝの鶏 鈴
寒仲ちをゝ行ゝてうゝまれ秋

猪名屋の弟物ゝ引し麦れ秋
一番村の人々手おれて
苗みな拾のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
苗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

京のれんこうさや田植時
をうつくしき事なり苗代はまきうゑ
まさるをうつくしき事なり田植うゑ
ゐるをれ植るかたの山田の郡
笠乃子子をうゑぬき田植歌
をこゆる郡山うけやう苗ゐ稲
越おうて玉江の植をゐ
ぬれと詳物うゐ

ゆきうゑ玉江のあとれ植乙女
地家屋とまり来閑亭を
網網子賀や賀やうれを賀れ屋
されいさを舟狩をみ賀やを屋とゐり
ゐて子我の世て狩けやこ一高
狩子とおれ一和さやちうう行
植子や賀や賀のうれと植も陸す
屋れ花子さ一さ玉様れ板アトう

うちなびかせる花よりはじめ蓋
及仲やうちなびかせる泡
那のくに博多の前もちの川みぞ
豆腐やまをとちのうちをもれよ
豆腐や見かうから塚れあるうち
麻苟や言ふ年の瓶波のそこうり
明石
南蛮れ打ちもやなりて屋形舟

蓋ものの川芋子をうちみて和布子
牛れ鶏保ちてみるうれいうつ苟子
仕まとり明やれ牛れ明やれ言
保うくとるれおおやれの秋
もう時みむまてをうをうれ
蓋の秋とうつけしものをさて
及秋や出うをつやれまて
同小豚れ神よ胴をつれて

珍しや小鏡に写る紅鏡

七浦の嶋に寄みて二句

七浦や星れ上の机しま

君きりや机なられて住鴫

志ほ里や茶屋の大谷の鈴柊際

よし野より浪速へ趣く山路

ま寸

清水の月すむや今宵は路通

人絶や清水辛きとる柳の蔓

打ちれた叶はき渡の志みつゝ

乱雲乃とり残して也芸清水

枝さ折て時ハ平派え渡る見つ

雲雨打丸左東ゟなを立めて

判衣抑るゝ乱橋の出丈河遣れ

立ち居も忘ひ出られて清く

静なる山路をとめあつさ哉

くもりて地す
春かすみたち霞の海の波の花
紅の大村雨の音の三日
月や今も二つ見る松の風
うち寄せて網代や国の春夜
月清しや湖の水もあるる川
月ほのぼのとおもふ村の小柴
月清しやちのうらの波の花

若さおやうらの湖水青も黄
その色ふてて海松ふる浦
あつさりやくろ海しとる石の山
波の手まふれて居し音波急
おもまふ波ほのぼの居し風の俤
住吉まふ
若さりや松枝おとる風松蟬
須磨家中

あすあすをあてにしてやはしるの船
うちあすあすをあてにして日数の
惜哉や岩をはしりてくだる水の音
うつうつうつうつまるすれる花の春
思うけて松ちうへぬ梅は春
秋はぬれおれ中やせゝの音

彼岸明年賀

耳まつく梅のちあふ代の紅

もゝ湯

こゝのゑはしるものゝ音寸をはる
ちはうちくもみさかもあはるの音
苔をけて第子入るやゝのみ松
入てをる沢のひくやゝをはる
梅節も弱るのゝ音て雲の音

藍染川の四花手序を宗て
あすちとゝさゝを浮一やゝの秋

拾えば海松とも伝ふ海藻の名なり
たとへば遠見して遠見すみぶ
葉名付神まて
志ふ記して涼しくはなれ綱さはき
沿岸雨出拾まて
船の弓付岸尖々と納涼舟
越乃漁舟すす
石平倒りあまり涼しカ千ル拾

東西古今亭まて
おりさくすれハ涼しさ深みれ
詩哥付乃をよくすれハ景色
宮恵付二法を照する二法
異すする事詩哥一致なり
却のれ藝平深ふり人の
再用をよろこ〻ぶと
すする詩哥付邪淫と

[illegible]山之人のりて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こんてたりみちられすなりし夕まくれ
浮草とうちかへしけり夕まくれ
雲に乗る俤の暑さや鉾の兒
みな人の見る時も知れぬ鉾の兒
篝火の届かぬ流く蛍
昔出やたしらずはしる乃南
雲居寺
五月雨の桜もて来す水喜

お金にする舟を浮へて
蓮の上にや浮世のなかに 南巴
那波くされ里湛ぬけて蓮に水
蓮すりれさ皮もてさらふ蕊られ
伐さよれ枝のくちれす蓮れむ
蓮のまや宗く手まし来ぬ前の音
蓮飯やせのりれ家を指乃え
清紀

夕の原よりけぶりたちくるの郡
芭蕉軒の翁和尚の
墓をたづねて塚をちるやなを残
紅葉の所々に残れる宗阿
居士の遺墨をまのあたりて
いさゝらむ物語草は花のもと
さらくと風よ色葉の枝ゝ
その書て涙を投むみそ紀行

あとゝ世にて世尊をさゝる乃枝ゝ
加賀はれ金屋をを行ゝ
寺も柳も芳ゝしきものゝ
こゝゝされと古紀柳の枝葉
ちるれるそのせゝのれて
いくゝ箱ゝ名を感す
志ゝをけいを多る秋や寺ゝを

302